

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 25 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	美術館常設・企画展示費				
担当課係名	美術館	課	事業	係	作成者 小松亜希子
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財保護			
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成			100
予算費目	一般	会計	10款	教育費	5項 社会教育費 6目 美術館費
事業期間	平成	年度	～	平成	年度 新規/継続の区分 継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input checked="" type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	なし				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	来館者全般
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	常設展を開催し、多くの来館者に郷土が誇る日本画家・平福穂庵・百穂父子のことを知ってもらうとともに、企画展では多種多様な美術作品を展示することで多くの人に芸術への関心を持ってもらいたい。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	①常設展の開催(通年) ②企画展の開催(7回)

【事務事業の推移】

		項 目	単位	24 年度実績	25 年度実績	
効果	活動指標	常設展・企画展の開催	目標	回	5	7
			実績	回	5	7
			達成度		100.0%	100.0%
	成果指標	常設展・企画展の開催	目標	項目	5	7
			実績	項目	5	7
			達成度		100.0%	100.0%
投下コスト	項 目		総事業費	24年度決算額(千円)	25年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)			3,706	2,627	
	人 件 費 (B)		—	12,719	12,429	
	職 員 数		—	1.50	1.50	
	職員平均人件費		—	8,479	8,286	
	(A)+(B) 投下コスト		—	16,425	15,056	
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
		一般財源			16,425	15,056
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	3,285,000	2,150,857	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	552	512	

【事務事業の今までの成果】

常設展を開催していることで、県外からの来館者に平福父子のことを知ってもらうことができている。また、企画展を開催したことで、平福記念美術館自体を知らなかった人に、覚えてもらうことができ、少しずつではあるがリピーターも増えつつある。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田県では2つ、秋田市には1つ公立美術館があり、それぞれで企画展を開催している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	平福父子作品をもっと充実させてほしい。一般の人たちにもわかりやすい展示をしてほしい。市民がもっと気軽に利用できる美術館づくりをしてほしい。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	美術館は市の芸術文化振興にとって必要であり、より良い展示活動を継続する必要がある。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	児童生徒美術展の継続、新人・在郷作家の作品展示としても活用してもらいたい。今まで通り、いつでもだれでも気軽に入館できるように望みます。

